Mother to Mother
SHIONOGI Project

Mother to Mother SHIONOGI project 成果と今後の展開

2022年3月16日

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

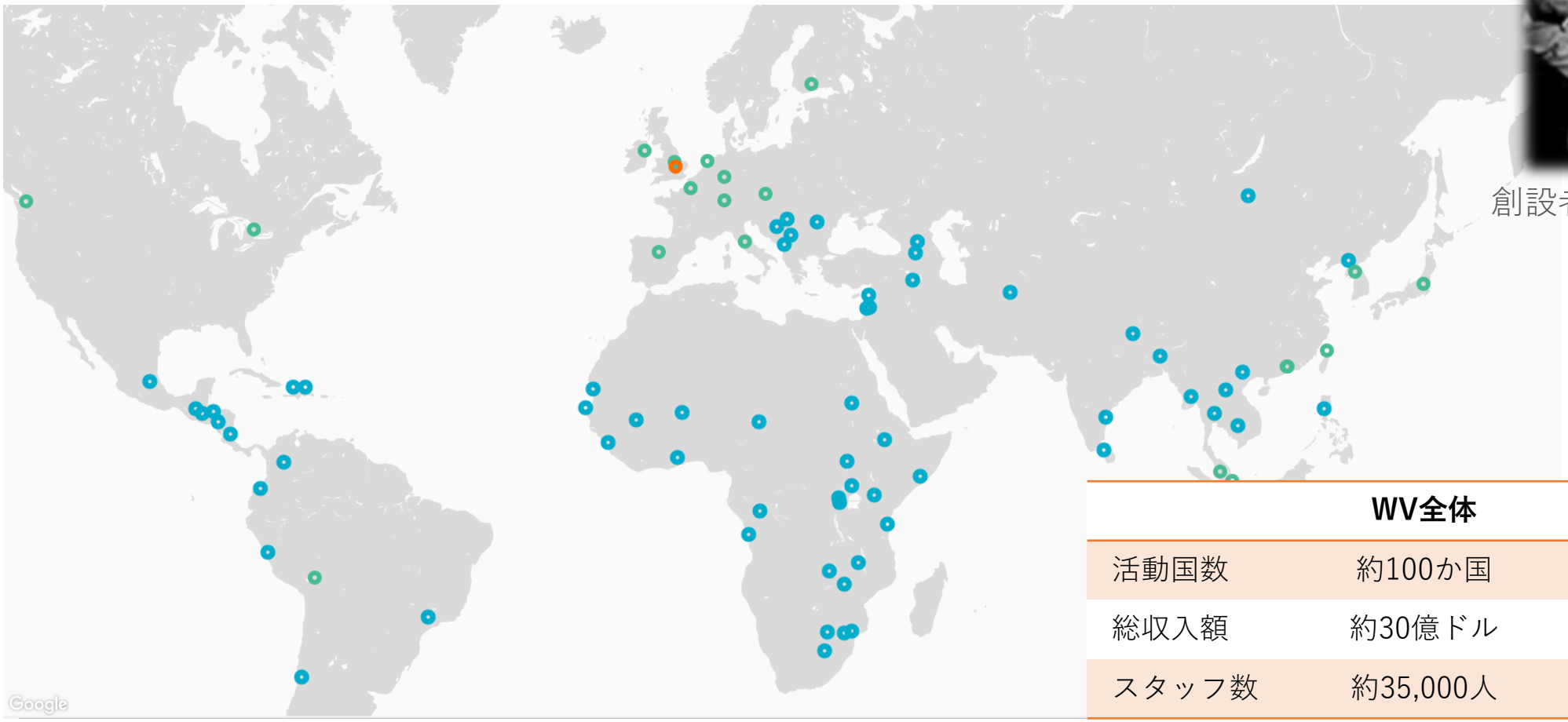
事務局長　木内真理子

World Vision

ワールド・ビジョン

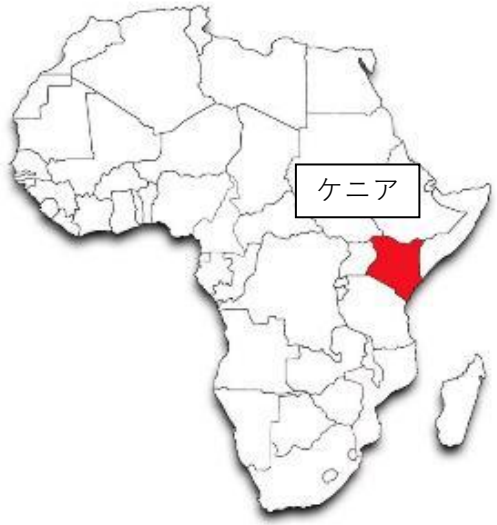
- 世界の子どもたちのために活動する国際NGO
- 1950年にアメリカで設立
- 「何もかもはできなくとも、何かはきっとできる」

創設者　ボブ・ピアス
（1914-1978）



	WV全体	WV ジャパン
活動国数	約100か国	36か国169事業
総収入額	約30億ドル	約61億円
スタッフ数	約35,000人	約80名

事業地の課題



ケニア共和国　ナロク県オスプコ郡　イララマタク地域

- 社会インフラの未整備（道路、電気、通信など）
- 保健施設の不足、提供される保健サービスの質の問題
- 村落保健員の体制の未整備と能力不足
- 地域住民の保健や栄養に関する基礎的な知識の不足
- 遊牧民であるマサイ族特有の習慣

事業地（イララマタク地域）の風景

イララマタク地域の人々の生活の様子

遊牧民であるマサイ族

不衛生な水

乾季には家畜の水と牧草を求めて移動

水くみは人々の生活にとっても大きな負担

ケニアにおける母子保健の課題

ケニアの妊産婦や乳幼児の死亡率が高い背景には、保健施設の設備やシステムの脆弱さ、医療従事者の知識・技能の不足、地域住民の保健に関する基礎的な知識などが深くかかわっている。

	ケニア	日本	日本との比較	イララマタク地域*5
妊産婦死亡率（10万出生）*1	400	6	66倍	-
5歳未満児死亡率（1000出生）*1	71	3	23倍	-
保健施設での分娩率*1	43%	100%		9.4%
発育阻害率（慢性栄養失調）ケニア*2、日本*3	26%	6.3%	4.1倍	39.3%
消耗症率（急性栄養失調）ケニア*2、日本*3	4%	2.3%	1.7倍	10.9%
予防接種完遂率ケニア*4、日本*1	79%	>90%		73.8%

上記は事業開始前のデータ。出典はそれぞれ以下の通り。
*1 UNICEF 世界子供白書2015
*2 UNICEF data warehouseより、ケニアのデータを選択https://data.unicef.org/dv_index/
*3 WHO Websiteより日本のデータを選択 https://platform.who.int/data/maternal-newborn-child-adolescent-ageing/indicator-explorer-new
*4 Kenya Demographic Health Survey 2014
*5 イララマタク地域の数字はすべて、WVケニアによる内部評価報告書（2014年）

事業のビジョンとアプローチ

World Vision

事業のビジョン

お母さんと子どもたちの健康管理を自立的かつ持続的に行えるコミュニティの実現

保健システム・サービス強化と
住民への啓発と意識・行動変容
＋
Mother to Motherグループ
というユニークな取り組み

事業のアプローチ

政府への提言

事業の成果や学びから、保健システム改善のため対策を政府に提言

インフラ整備による保健システムへのアクセス向上

医療従事者や住民の知識の向上と行動変容

県
郡政府

保健センター
/診療所

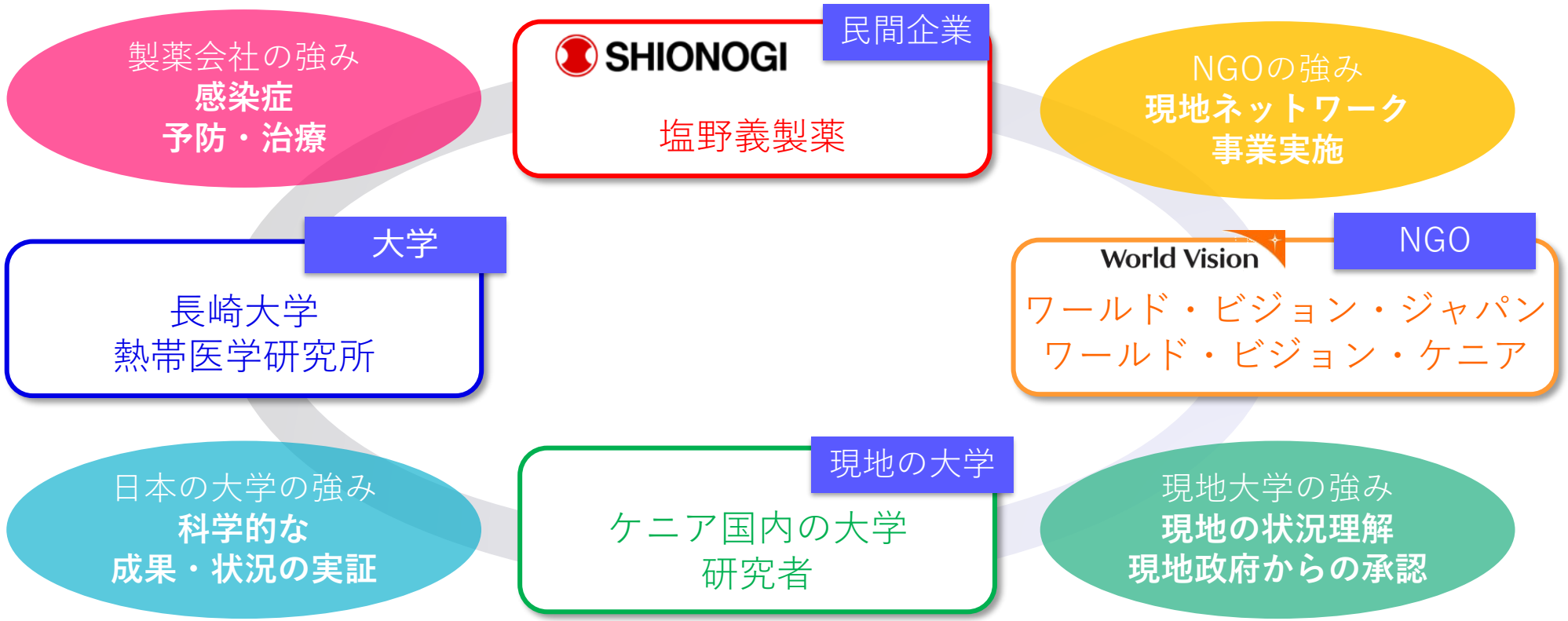
村落保健員

Mother to Mother
グループ

地域住民

ケニアの保健システム

多様な関係者間によるパートナーシップ



事業の全体像

プロジェクト目標　：　妊産婦・5歳未満児の健康状態が改善する

2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
事業地	エランガタ・エンテリット、エンクトト、モシロの3地区：約15,000人			エランガタ・エンテリット地区：約3,500人		
	診療所建設			給水施設		
	巡回診療（診察、子どもの栄養状態の調査、予防接種など）					
	村落保健員とM2M*グループへの研修（母子保健、水衛生、栄養、収入創出能など）					
			長崎大学熱帯研　研究事業			終了時評価

事業前の診療所

診療所建設

給水施設

村落保健員への研修

産前健診

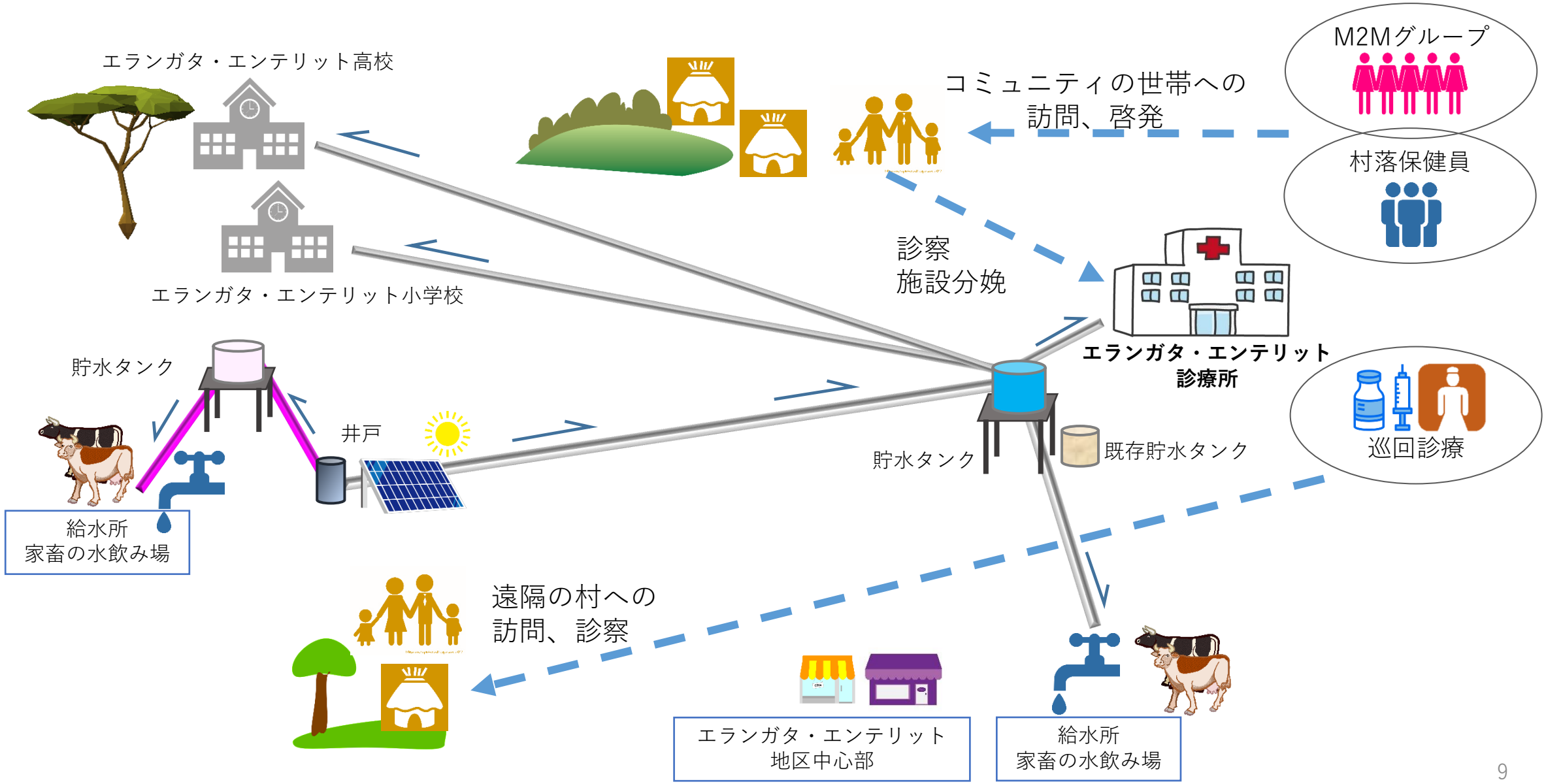
M2Mグループへの研修

巡回診療・予防接種

研究調査

*M2M: Mother to Mother

コミュニティの相関図

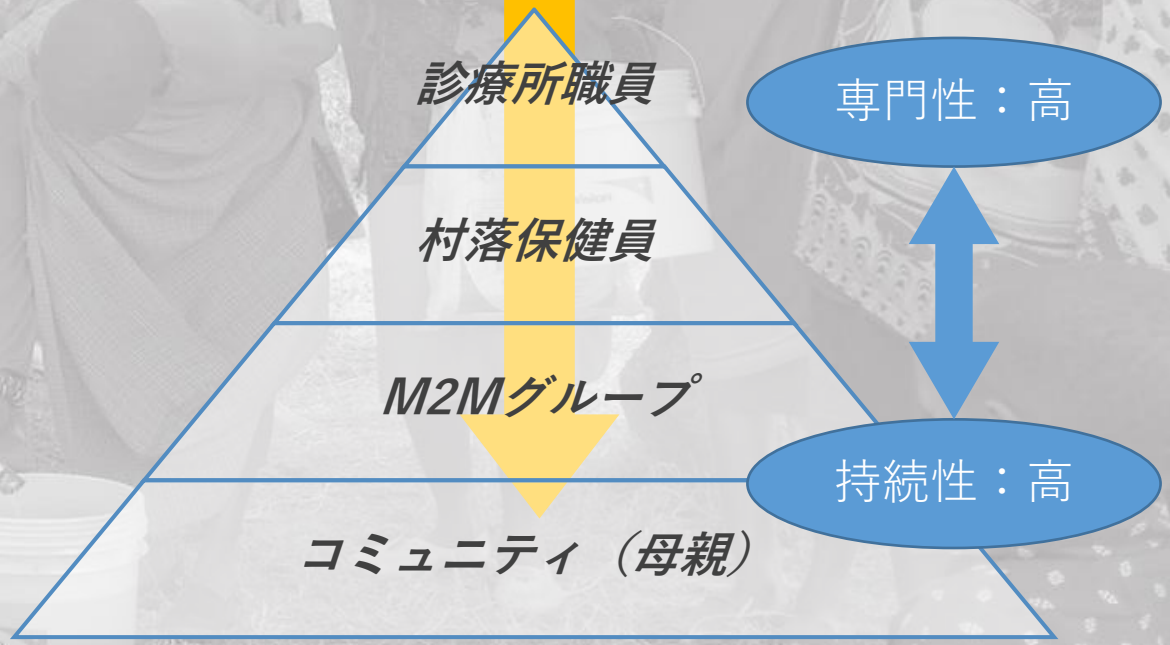

エランガタ・エンテリット高校
エランガタ・エンテリット小学校
M2Mグループ
村落保健員
コミュニティの世帯への
訪問、啓発
診察
施設分娩
エランガタ・エンテリット
診療所
巡回診療
貯水タンク
井戸
給水所
家畜の水飲み場
貯水タンク
既存貯水タンク
遠隔の村への
訪問、診察
エランガタ・エンテリット
地区中心部
給水所
家畜の水飲み場

研修を通じた知識の提供

プロジェクトを通じて研修や啓発活動を実施

母子保健	栄養	水衛生
母子保健の啓発	栄養教育	衛生指導、トイレ建設
伝統的産婆の巻き込み	栄養不良児への支援	学校の保健クラブ

医療従事者や村落保健員を通じて、知識や情報をコミュニティに伝える。



母子保健サービスと知識

母子保健サービス

■ 母子保健サービスの拡充
- 診療所や検査室など建設
- 診療所スタッフの増員と研修の提供

■ 巡回診療
- 人口密度が低い地域へのアウトリーチ
- 診療所スタッフが巡回
- 診察や予防接種を提供

知識

■ 母子保健に関する啓発
- 産前健診、予防接種、母乳育児の重要性
- 伝統的産婆の巻き込み

■ 栄養に関する知識の提供と実践
- 子どもの栄養状態の確認
- 栄養価の高い現地食材を使ったメニューの実践

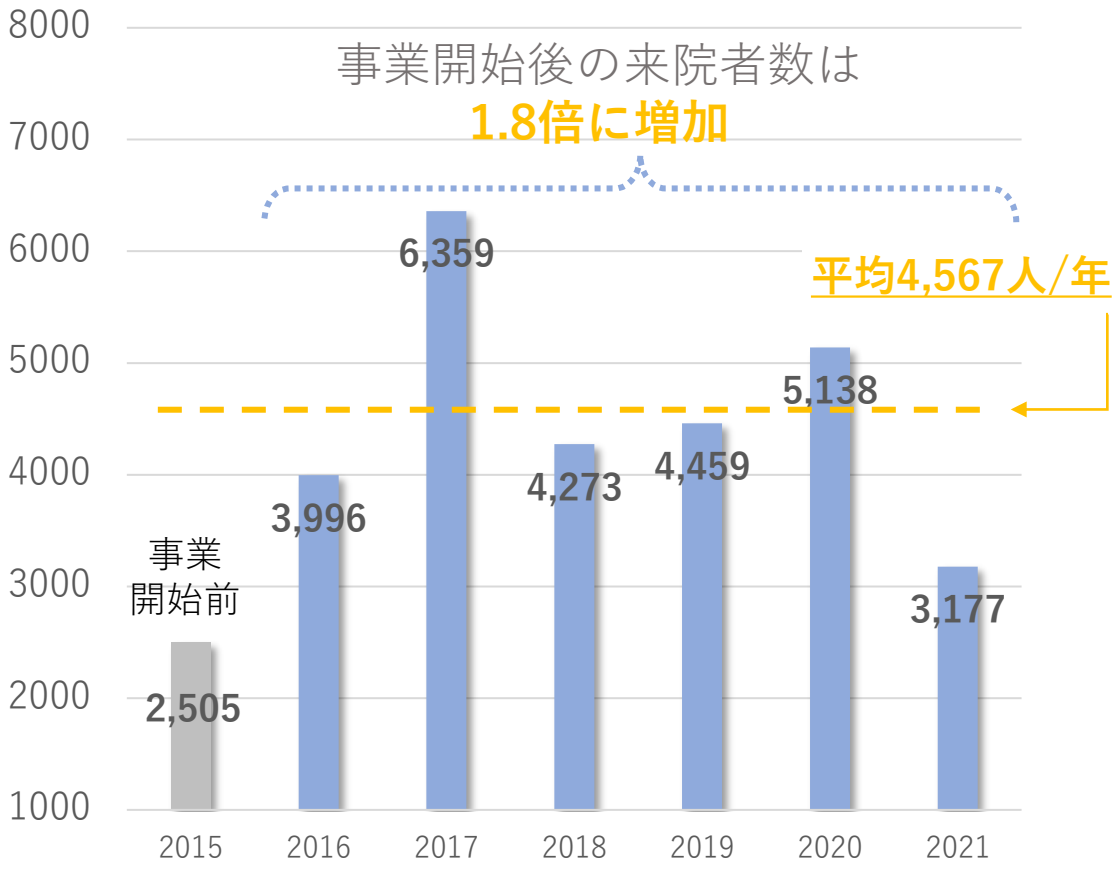
よりよいサービスと知識が母親の行動を変える

Mother to Mother グループ
- 母親から母親へ、知識を伝え合うピアグループ

診察や施設分娩など、
コミュニティ内に
母子保健サービスが浸透

診療所へのアクセス数の増加

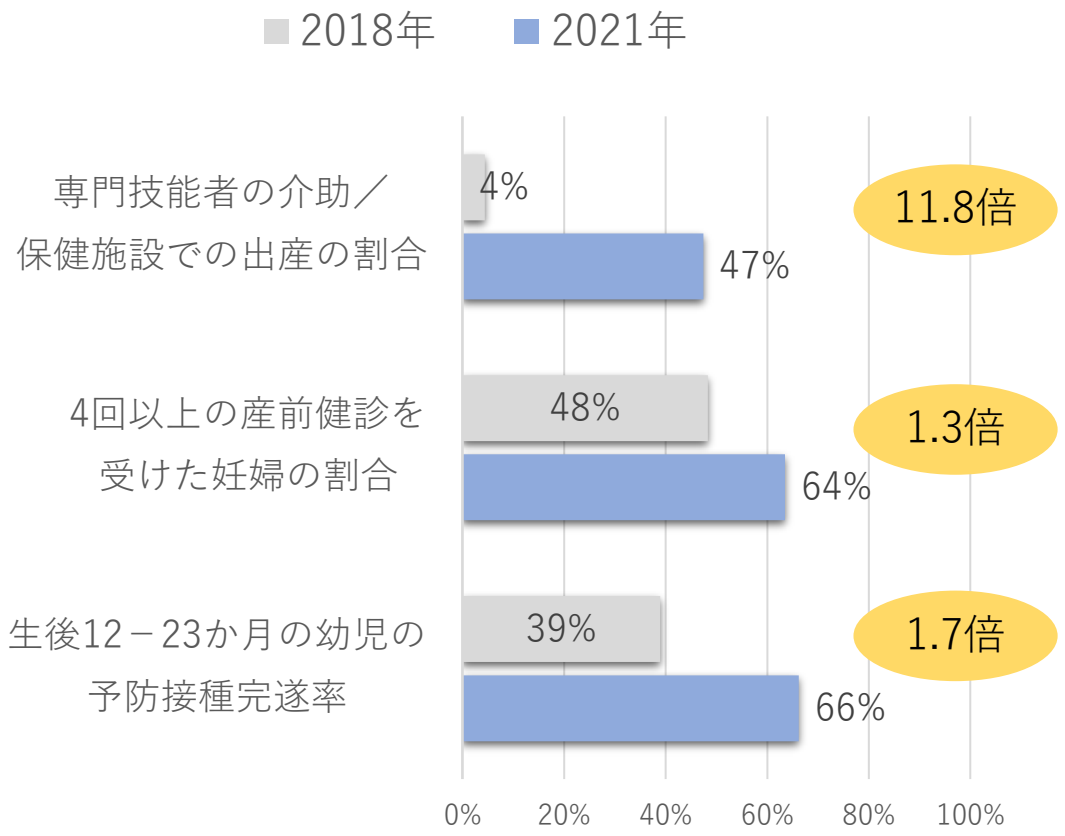
課題：保健施設の未整備	活動：診療所及び周辺施設の建設	成果：利用者数が増加
• 老朽化した建物 • 限定的な医療サービス • 医療機器や医薬品の不足	• 一般病棟、産科棟の建設 • 臨床検査室、薬局の整備 • 医療機器の調達と搬入	



2015年：事業実施前　2021年は10か月間のデータ

母子保健サービスの拡充

課題： 母子保健サービスの 質・量の不足	活動： 保健人材への 研修と啓発	成果： 利用者率が向上
• 保健スタッフの能力不足 • 村落保健員の体制未整備 • 住民の母子保健への理解	• 母子保健・栄養研修 • M2Mグループ形成 • 遠隔地への巡回診療	



2018年：ベースライン調査　/　2021年：エンドライン調査

水衛生の改善

安全な水の確保と
衛生（手洗い・トイレ）の問題

- 慢性的に水不足。入手できたとしても飲用に適さない。（特に乾季）
- 屋外排泄が一般的。手洗いの習慣がない。
- 水に起因する病気や下痢が子どもの成長に深刻な影響を与える。

水衛生とのつながり

母子保健　　栄養教育

**診療所やコミュニティに安全な水を提供し、
知識と情報で衛生行動の変容を促す。**

- 井戸の掘削と給水タンクの建設、給水所や家畜水飲み場の建設

- 学校手洗い指導を実施
- 世帯によるトイレ建設や手洗いの実践

研究事業からの対策と下痢症の発生率の低下

	2018	2019	2020	2021
事業活動	水衛生分野の支援（給水施設建設、コミュニティ内の啓発など）			
事業評価	開始時			終了時
長崎大/KEMRI*	ベースライン	中間調査		エンドライン

科学根拠に基づく提案
有効な対策の提示

ベースライン調査で見えた課題

5歳未満児の下痢の発生率の高さが課題。

安全な水が手に入れられない。

中間調査から見えた課題

井戸や給水タンクでは衛生的な水が世帯では不衛生な状態に。

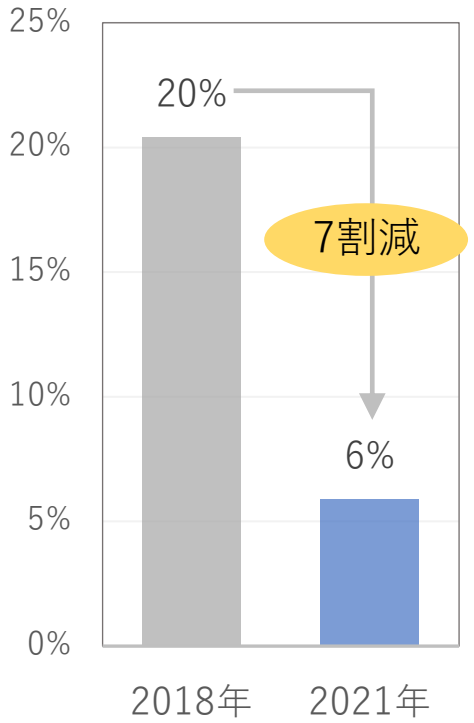
水を運び、保存するタンクの衛生状態が問題。

活動による対策と成果

世帯で使用するタンクの衛生管理の重要性を啓発。

終了時の評価では、５歳未満児の下痢の発生率が減少。

5歳未満児の
下痢の発生率



*KEMRI: Kenya Medical Research Institute

事業成果の持続可能性

巡回診療（ビタミンAを提供）

衛生指導（屋外排泄場所のマッピング）

貯蓄・貸付グループによる活動

新型コロナウイルスによる影響と対応

- 2020年3月以降、ケニア政府の新型コロナウイルス対策のため夜間外出禁止や、コミュニティへの訪問、集会に制限が設けられる。（現在は制限は緩和されている）
- プロジェクトを通じて、手洗い、マスクの着用、感染症に対する啓発活動を実施。また学校の保健クラブを通じて手洗いの指導を実施。
- 2021年後半からは、コミュニティでもワクチン接種が開始。

事業にかかわった人々の声

「この子は事業によって建設された診療所の衛生的な環境で産まれ、すぐに予防接種を受けることができました。生後6か月間は母乳育児が望ましいということも教えてもらいました」
Evaline Moloiさん
（7人の子どもの母親）

「診療所が完成して以来、ナロク県政府は診療所のスタッフを雇用し、医薬品を提供を担ってきた。今後も診療所から保健センターに格上げするように取り組みます。」
ナロク県知事　（診療所引き渡し式での発言）

以前は62km離れ病院に薬を受け取りに行っていました。この事業で産科棟や医療機器が整備され、またきれいな水も使えるため母親たちは診療所で出産できるようになりました。
Jenifer Mbung'iさん（この地域の母親）

第２期事業への進化

ケニアの新たな事業地で、M2Mプロジェクト第２期を実施中
（2020年－2023年）

成功事例の継承	面的な展開	オーナーシップの醸成
• M2Mグループと村落保健員による草の根レベルの医療サービスと母子保健に関する知識の浸透	• ３つの診療所と上位の病院との連携による母子保健サービスの改善と面的なインパクトの追求	• 政策立案の基礎となる保健データの強化支援、また住民の声を吸い上げ、政策や保健サービスの改善につなげる。

第２期事業キリフィ県の診療所

リマ・ラ・ペラ診療所

ミドイナ診療所の産科棟建設

ジャリブニ診療所に建設した産科棟の内部

ケニアの子どもたちのために、これからも

World Vision

Mother to Mother

SHIONOGI Project

SHIONOGI

World Vision